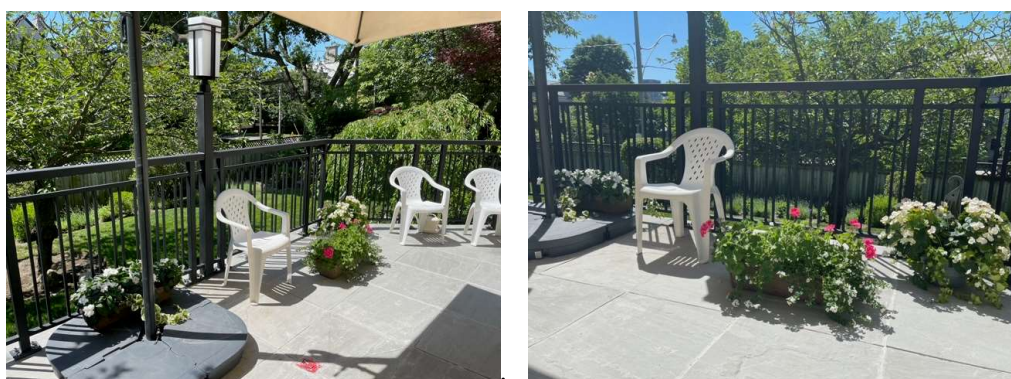


令和3年6月

皆様いかがお過ごしでしょうか。

トロントはすっかり夏の趣きとなり、30度を越える日もあります。日本のような梅雨はなく、湿度も晴れた日は低く、快適です。しかし、中には嵐のような荒天の日があります。総領事館のある高層ビル群は低い雲に覆われ、トロントの街のランドマークとなっているCNタワーも半分以上靄に包まれる日もあります。いずれにしても、大都市でありながらオンタリオ州の豊かな自然環境を実感できる日々です。



コロナ禍の状況は、長く出されていた、STAY-AT-HOME ORDER が6月2日に終了、11日には待望の再開計画第1ステップが始まりました。さらに、オンタリオ州政府は、6月30日に予定を早めて第2ステップを開始することを発表しました。ワクチンの接種も進んでおり、今やカナダは、少なくとも1回は接種した人の割合は、世界をリードする国になりました。トンネルの出口は確実に近くなったと思いますが、対策は継続されております。皆様におかれましても、オンタリオ州政府や御自身がお住まいの地域のウェブサイト等から常に感染情報を確認し、上記措置を遵守しつつ、これまでと同様に感染予防に努めてください。

今月は、これまで日本政府や関係機関が進めてきたオンタリオ州との人物交流、特にJET（語学指導を行う外国青年招致事業：The Japan Exchange and Teaching Programme）プログラムについてご紹介したいと思います。

日本政府が実施する人物交流としては、JET、国費留学生、カケハシ・プロジェクトなど様々なものがあります。このうちJETは歴史が古く、1986年に米国、英国、豪州、ニュージーランドの若者を対象に始まりました。1988年からカナダも加わり、以来、継続的に、JETの方々を受け入れてきています。

日本に向かった若者は、日本各地の自治体などに受け入れられ、外国語指導助手(ALT)、国際交流員(CIR)などとして活躍します。任期は通常1年で、さらに延長も希望者によっては認められます。配置先は、自治体や学校から希望がある限り、ほぼ全国津々浦々と言って良いでしょう。私も、多くのJETの方をカナダからお見送りしましたが、私もまだ訪れたことがない市町村に配置される方も多くおられました。

オタワを除くオンタリオ州からは、これまで3千名を優に超える方々がJETとして日本に渡航されています。北米地域からこれほど多くの方が、毎年、参加されるプログラムがほかにあるでしょうか。参加者は、もともと日本に何らかの関心を持っておられた方が多く、現地の体験を通じて単に国際交流に貢献されるだけでなく、日本のついでへの考えや関係、「絆」を深めてカナダに戻ってこられる方が多いのです。

JETプログラムでは、JETを終えても日本を離れた方との連絡を取り続け、さらに交流を深めるため、卒業生組織を充実させています。JETAA (JET Alumni Association) と呼ばれるこの組織に、ここトロント支部にも、1100名を越える皆さんが参加されており、いろいろなプログラムに取り組んでいます。

JETAA トロント支部には2名の共同会長の方がおられ、活発な活動を行っておられます。私は、マシーさん (Mr. Andrew Massey) とグレイグさん (Mr. Geoffrey Greig) に書面でインタビューを行い、日本との関わりや、今後のJETAA トロント支部の活動について伺いました (注、以下は書面インタビューを元に再構成したもの。敬称略。)



マシーさんの写真

(2013年から2015年にJETとして長崎県の高校に配属。)



グレイグさんの写真

(2013年から2014年にJETとして鹿児島県に配属。)

(佐々山) どのようなことをきっかけに日本に関心を持たれたのでしょうか。

(マシー) きっかけは、10代のときのビデオ・ゲームです。交換留学生として初めて日本に行き、日本の商店街で「ストリート・ファイター」をしました。

(グレイグ) 私は、アニメです。週間漫画誌の「シャーマンキング」が人気を集めた頃です。その後、私が現代芸術に進む動機ともなりました。

(佐々山) 私の世代では、ビデオ・ゲームは、ゲームセンターで、100円か50円玉を機械に入れて、「インベーダー」をするのが主流でした(笑)。また、マンガ雑誌は、散髪屋さんで順番を待つときに読むことができました。熱心に月に1度は散髪するようにした覚えがあります(苦笑)。

日本に滞在されたときの思い出はなんでしょう。

(グレイグ) 英語教員として、先生方や生徒、そのご家族、また学校に関係する業者の方々からも暖かく歓迎されました。地元の文化行事、武者行列や蜘蛛合戦(注、女郎蜘蛛を水平な棒で喧嘩をさせる伝統行事。)を身近に体験しました。

(マシー) 週末にはいろいろな方に連れて行ってもらい、様々な土地を訪問したことです。特に、日本各地にはご当地のごちそうがあります。日本の食文化は世界に誇れるものがあると思います。

(佐々山) 私の父は高知の出身でしたので、夏休みに祖父や祖母の家に行った際に、蜘蛛や蟹と遊んだのを思い出しました。また、親戚が岡山にいて、地元の清流からとれる鮎や日本

酒の味わいに驚いたことも良い思い出です。JETの方は、普通の日本人よりも、日本の隅々までご存じですね！



JETプログラムの参加者一行とともに福岡に出向き、初めて日本のプロ野球を観戦（マシーさん）



鹿児島県霧島市の初午祭に参加（グレイグさん）

（佐々山）今後のJETAAの活動について教えてください。

（両氏）日本と日本文化を知るものとして、引き続きコミュニティーと日本の絆を深めて行きたいと思います。具体的には、オンラインでも対人でも交流を深めることを続けます。トロントのダウンタウンのラーメン屋さんツアーも再開したいです。日系のビジネスの関係者、コミュニティー組織とも交流したいですね。JETAAのために、キャリア・サポートも行っていきたいと思います。



出発前研修の際の集合写真

Copyright: JETAA Toronto

(佐々山) オンラインであれ、対人のイベントであれ、JETAA の活動は、日加間の関係を深める大変意義深い活動だと思います。総領事館としては、引き続き、JET に参加する方のための日本語を含む事前研修や、JETAA 会員に対する日本語研修支援などに力を入れていきたいと思っています。今回はありがとうございました。

6月14日現在、コロナ禍のため、トロントから出発予定の100名を越えるJETの方々、残念ながら日本への出発を見合わせています。コロナが収まり、日本に出発できる日が一日も早く来ることを願いたいと思います。

在トロント日本国総領事  
佐々山 拓也